

保育者に求められる表現の育成に関する一考察

A study on the skills of expression activities for the childcare professional

岡 泉 志 の ぶ^{*1} 田 村 田^{*2}
Shinobu Okaizumi Den Tamura

Abstract:

The purpose of this research was to consider how to nurture expressive power of students wanting to become teachers of nurseries and kindergartens.

In this survey, we conducted a questionnaire, and based on that data, we clarified the skills and qualities necessary for expressive activities in kindergartens and nursery schools and what we will do to foster it.

As a result, we decided to focus on training expressive skills and qualities necessary for expression activities.

キーワード：

豊かな感性、保育者、保育者養成、表現技術、資質

1. はじめに

平成 29 年 3 月に告示された幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、及び保育所保育指針は、これまで以上に整合性が図られた^{1) 2) 3)}。それは、教育基本法、学校教育法の「生きる力」を育む学校教育全体の理念に基づいて⁴⁾、より確実に育成することを重視し、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力の基礎」、「学びに向かう力、人間性」と明確にしたことである。これまでの幼児教育では、非認知的な能力が育まれることで、思考力や判断力、表現力が高まり、結果的に幼児の知識や技能へと繋がっていくと考えられている。この幼児教育の考えが、この 5 つの領域のねらいと内容に基づいた活動を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と明確になった

と言える。

領域「表現」では、新しく示された内容の取扱いに「…風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色に気付くようにすること」とある¹⁾。何気ないことが子ども自身の感性を働かせ、全身の感覚を通して感じていくことである。「豊かな感性と表現」=「表現する」という過程は、このような環境を通して行うものであり、乳幼児の自発的な遊びを通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10 項目を保育者は留意する必要があるということ⁵⁾。保育者においては、それらに示された趣旨を踏まえた教育・保育の実践が求められており⁶⁾、これらを実践する保育者にとって最も重要なことは、乳幼児の発達や保育内容の知識

^{*1} 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科

^{*2} 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科

Sano Nihon University College Associate Professor

Sano Nihon University College Senior Lecturer

や理解を深めることだけでなく、現場で対応していくための保育者自身の資質であり、保育者自身のこれまでの体験や自身の資質が、子どもの個々の感性を発揮させ、豊かな表現の育成をすると考える。

領域「表現」における乳幼児への保育者の援助や役割は、保育者自身の表現性と大いに関係する⁷⁾。実際に保育者となる保育士養成校の学生には、保育者として必要な技術や資質を言葉でわかっている、これまでの経験や実際に体験していないことから、表現することができない、表現する難しさを感じて自信がないと思っている学生も少なくない。

本研究は、保育者が表現活動を実践する際に必要な表現技術とどんな資質を求めているのかを調査し、保育者養成校に求められる学生の資質、及び表現の育成について「豊かな感性と表現」の視点で考察する。

II. 調査概況

1. 調査対象者の属性

栃木県内の幼稚園、認定こども園、保育園に勤務する保育者94名、本学こどもフィールドの学生161名を対象とした。

性別、年齢は問わず、保育者については、勤続年数で、保育歴1～4年が30名(32%)、5年～9年が12名(13%)、10年～14年が26名(27%)、15年～19年が11名(12%)、20年～30年が13名(14%)であった[図1-1]。

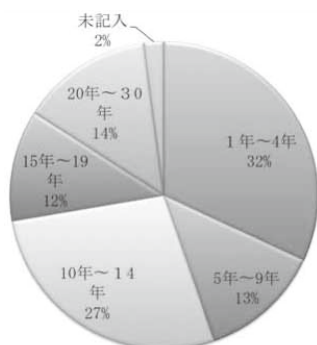


図1-1 保育者の勤続年数

学生については、2年生が90名(学生回答全体の56%)、1年生が71名(学生回答全体の44%)となった[図1-2]。

2. 調査期間と方法

平成29年11月～12月においてアンケート調査で実施した。保育者の調査は、各園長に依頼し、12月中に回収した。学生について、1年生は教育実習が終了した時点で引き、2年生は、全ての実習が終了し、舞台発表^{註1)}の練習が本格的に始まった12月下旬とした。

3. 調査の内容と回答項目

園長先生方にもご協力いただき、筆者らが提示したアンケート内容を基に協議の上、内容、回答項目の検討をした。

調査内容と項目については、次の通りある。

(1) 表現活動において保育者に必要な技術

- ① ピアノ技術
- ② リトミック
- ③ 弾き歌い
- ④ 絵画
- ⑤ 造形
- ⑥ 読み聞かせ(絵本・紙芝居)
- ⑦ 劇あそび(言葉・身体)
- ⑧ ダンス
- ⑨ その他(記述にて回答)

(2) 音楽的、造形的な技術の必要性(記述)

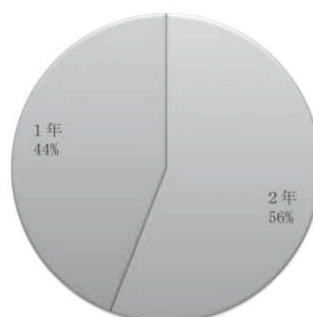


図1-2 学生の学年別

【保育者に必要な技術】

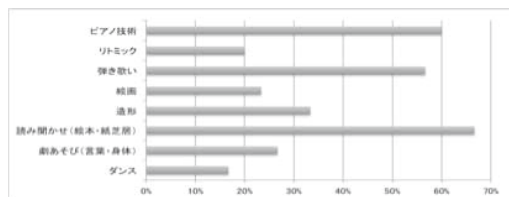


図 2-1 (保育歴 1 年～ 4 年)

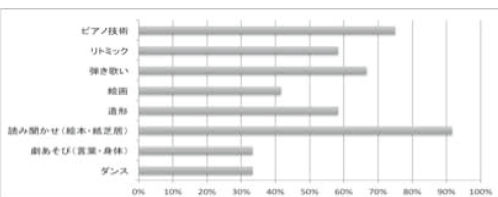


図 2-2 (保育歴 5 年～ 9 年)

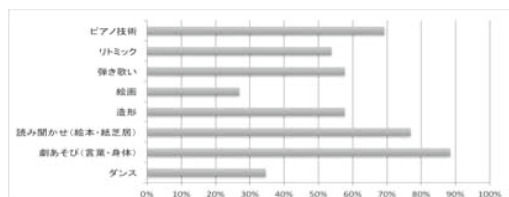


図 2-3 (保育歴 10 年～ 14 年)

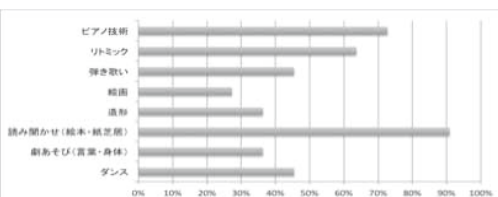


図 2-4 (保育歴 15 年～ 19 年)

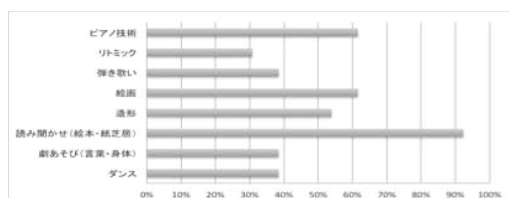


図 2-5 (保育歴 20 年～ 30 年)

と「劇あそび（絵本・紙芝居）」の 2 項目と身体的ダンスを追加して 8 項目となった。（6）については、学生のための回答を求めた。

4. 集計方法

筆者らは、表現に関連する科目を担当しており、記述回答についての分類は、類似するものをまとめた。また、保育者に求められる資質を育成する時期とどんな活動で育成されるかの記述に関しては、筆者らの視点で 3 つの柱に分類して集計を行った。

III. 結果

1. 表現活動に必要なとする技術

（1）保育者が必要としている表現技術

保育者から 8 項目の「ピアノ技術」「リトミック」「弾き歌い」「絵画」「造形」「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」「劇あそび（言葉・身体）」「ダンス」について調査した。

保育歴 1 年～ 4 年が必要としている表現技術は「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」が 67%、「ピアノ技術」が 60%、「弾き歌い」が 57% と他の項目に比べ高い数値を示した【図 2-1】。保育歴 5 年～ 9 年では「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」が 92%、「ピアノ技術」が

- ① 音楽的な技術
 - ② 造形的な技術
 - ③ その他（記述にて回答）
- （3）保育者として求められる資質

- ① コミュニケーション
 - ② 感受性
 - ③ 創造力（イメージ）
 - ④ 応用力
 - ⑤ 発想力
 - ⑥ 観察力
 - ⑦ 思考力
 - ⑧ 判断力
 - ⑨ その他（記述にて回答）
- （4）上記³⁾の資質を育成する時期と内容
- （5）これから更に習得したい技術や技能
- （6）本学の行事である舞台発表の学び

上記（1）保育者に必要な技術についての回答項目は、筆者らの検討と園長との協議により抽出した。園長からは「リトミック」

75%、「弾き歌い」が67%、「リトミック」が58%、「造形」が58%であり、5項目の技術を選択した保育者が多い結果であった【図2-2】。保育歴10年～14年では「劇あそび（言葉・身体）」が88%、「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」が77%、「ピアノ技術」が69%となっており、「リトミック」「弾き歌い」「造形」の技術についても50%以上となっている【図2-3】。保育歴15年～19年では「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」が91%、「ピアノ技術」が73%、「リトミック」が64%となっており、この3項目が他の項目より高い【図2-4】。保育歴20年～30年では「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」が92%、「ピアノ技術」が62%、「絵画」「造形」の2項目についても50%以上なっ

ている【図2-5】。保育者全体の結果では「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」「ピアノ技術」の2項目が保育歴に関わらず選択されており、「弾き歌い」の項目についても半数以上が選択した。また保育歴が長くなるにつれ「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」の技術を選択する保育者が高くなる結果となった【表1】。

（2）学生の表現技術に対する意識

学生の表現技術（8項目）に対する意識について、2年生では「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」「弾き歌い」の項目を選んだ学生が高いのに比べ、「絵画」や「ダンス」の項目を選ぶ学生が低くなっている【図2-6】。

1年生についても、「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」

表1 保育者に必要な技術（保育歴別）

| 項 目 | 1 年 ～ 4 年 | 5 年 ～ 9 年 | 10 年 ～ 14 年 | 15 年 ～ 19 年 | 20 年 ～ 30 年 |
|------------------------------|--------------|--------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| ピ ア ノ 技 術 | 60% | 75% | 69% | 73% | 62% |
| リ ト ミ ッ ク | 20% | 55% | 54% | 64% | 31% |
| 弾 き 歌 い | 57% | 67% | 58% | 45% | 38% |
| 絵 画 | 23% | 42% | 27% | 27% | 62% |
| 造 形 | 33% | 58% | 58% | 36% | 54% |
| 読 み 聞 か せ (絵 本 ・ 紙 芝 居) | 67% | 92% | 77% | 91% | 92% |
| 劇 あ そ び (言 葉 ・ 身 体) | 27% | 33% | 88% | 36% | 38% |
| ダ ン ス | 17% | 33% | 35% | 45% | 38% |

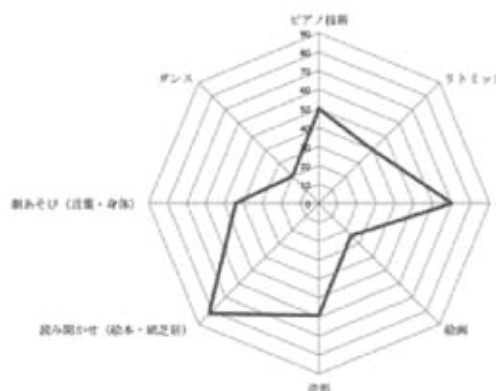


図2-6 保育者に必要な技術（2年生）

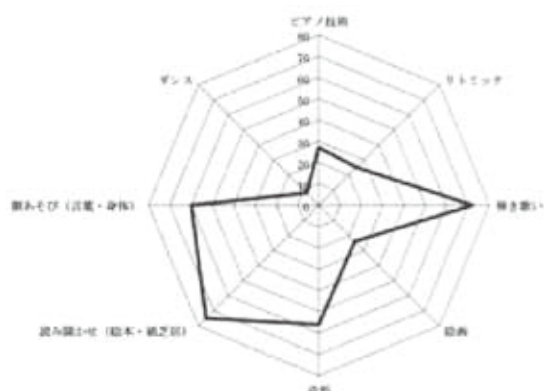


図2-7 保育者に必要な技術（1年生）

芝居)」「弾き歌い」「劇あそび(言葉・身体)」「造形」の項目を選ぶ学生が高かった【図2-7】。

学年に関わらず「読み聞かせ(絵本・紙芝居)」「弾き歌い」の項目を選んだ学生が高い結果となったが、「絵画」と「ダンス」について意識が低いことを示唆している。

(3) これからも身につけたい技術

保育者(保育歴1年～30年)が身につけたい音楽的技術では「ピアノ(レパートリー)」技術の記載が突出して見られた【図2-8】。

主な記述は以下の通りである。

- ・ピアノを初見で弾く技術
- ・リトミックの伴奏技術
- ・曲のレパートリーの増加
- ・コードを使って簡単にすぐ弾いて歌う
- ・弾き歌いがしっかりできる技術

保育者が身につけたい造形的技術では「身近なもので作品作り」「製作技術の向上(自分)」「劇(衣装・小道具)」の項目を選んだ保育者が多い結果となった【図2-9】。主な記述としては以下の通りである。

【身につけたい音楽的・造形的技術】

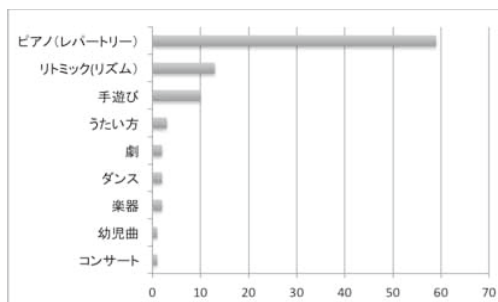


図2-8 音楽的技術（保育者）

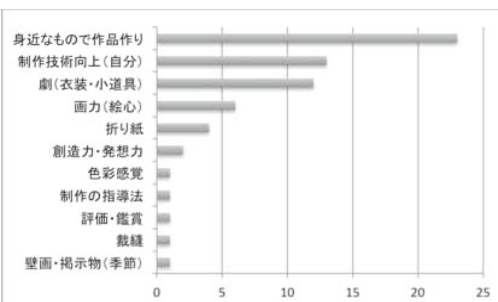


図2-9 造形的技術（保育者）

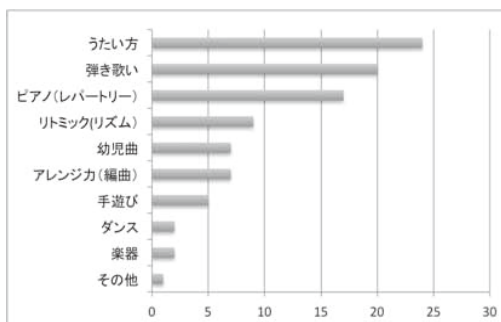


図2-10 音楽的技術（学生2年生）

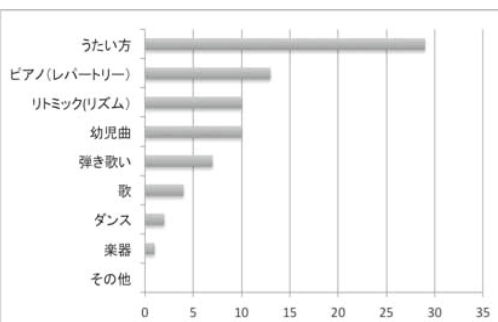


図2-11 音楽的技術（学生1年生）

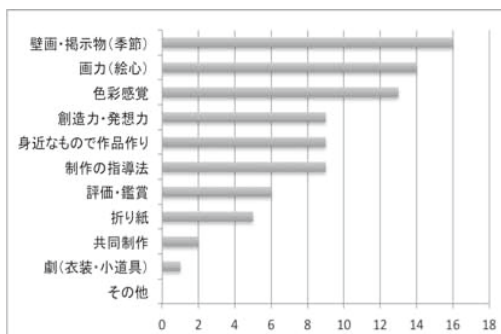


図2-12 造形的技術（学生2年生）

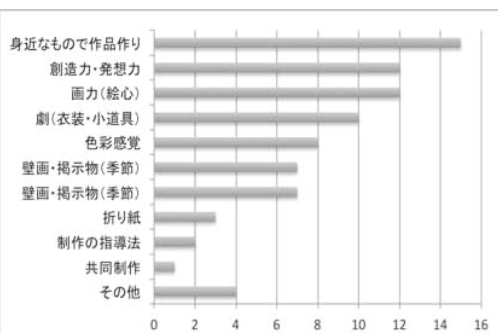


図2-13 造形的技術（学生1年生）

- ・ペープサート
- ・廃材を利用した遊びと活用法
- ・パネルシアターの作成
- ・絵の具やクレヨンの楽しい技法
- ・年齢や季節に合わせた制作

2年生が身につけたい音楽的技術では「うたい方」「弾き歌い」「ピアノ（レパートリー）」の記述が多い結果となった【図2－10】。主な記述は以下の通りである。

- ・幼児曲の歌い方（声かけ）

- ・声楽（発声）
- ・どのように弾いたら子どもが喜ぶか
- ・年齢に合わせた選曲
- ・子どもが楽しめるピアノアレンジ力

1年生が身につけたい音楽的技術では「うたい方」についての記述が特に目立った【図2－11】。

2年生が身につけたい造形的技術では「壁画・掲示物（季節）」「画力」「色彩感覚」の記述が多い結果となった【図－12】。主な記

【保育者が必要としている資質】

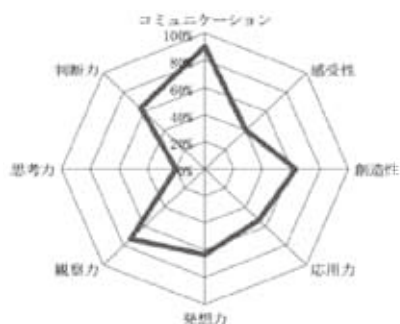


図3－1 保育歴1年～4年

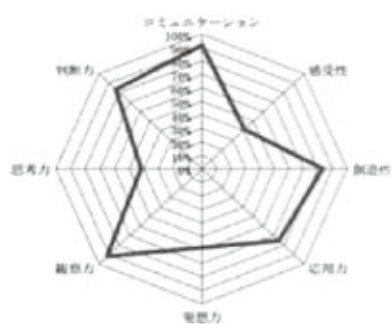


図3－2 保育歴5年～9年

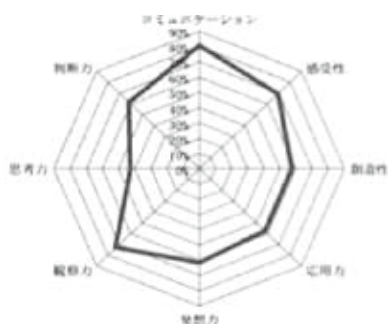


図3－3 保育歴10年～14年

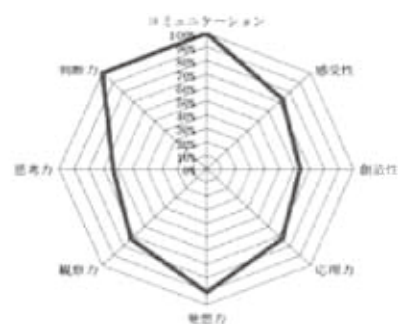


図3－4 保育歴15年～19年

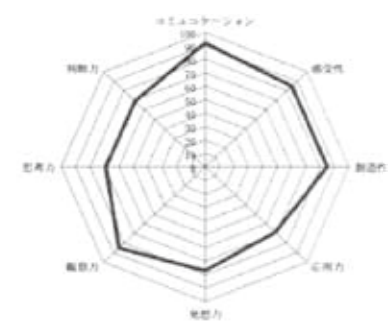


図3－5 保育歴20年～30年

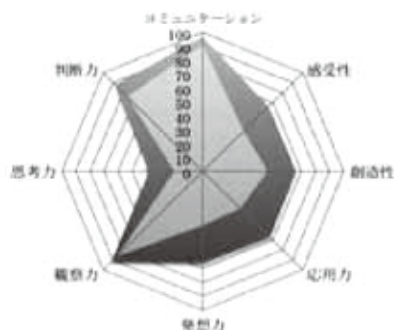


図3－6 学生が求めている資質

述は以下の通りである。

- ・壁面制作の技術
- ・季節を活かした造形活動（環境構成）
- ・デッサン力
- ・色彩感覚（色の使い方・グラデーション）

1年生が身につけたい造形的技術では「身近なもので作品づくり」の記述が多い結果となった【図2－13】。主な記述は以下の通りである。

- ・身近な物（折り紙・段ボール）での製作
- ・家にある物を使ってできるおもちゃ作り
- ・季節の物を使った製作

2. 保育者が求めている資質

（1）保育者が必要としている資質

保育歴が1年～4年、5年～9年では「コミュニケーション」「創造性」「応用力」「観察力」「判断力」が必要と多く回答され、「感受性」「思考力」は40%以下であった【図3－1】【図3－2】。保育歴が10年～14年では「感受性」が69%であり、「思考力」については42%となっている【図3－3】。保育歴が15年～19年の保育者が求めている資質では「コミュニケーション」「判断力」が多く「感受性」について

も7割を超えた【図3－4】。保育歴が20年～30年の保育者が求めている資質では8項目すべての数値が高い結果となっている【図3－5】。

（2）学生の資質に対する意識

学生の意識については各学年を合わせて表にした。「コミュニケーション」「観察力」「判断力」の3項目について学生は意識が高い傾向が見られた。「思考力」では、他の7項目に比べ両学年とも意識が低い傾向が見られた【図3－6】。

（3）資質を育成するための表現活動

保育者に必要な資質を育成するために必要な時期の結果は、幼児期であると9割以上が回答し、その活動内容の記述を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に分類した【表2】【図3－7】⁸⁾。「知識及び技能」では遊びや体験を通してのものを分類し、持久走や器械体操、リトミックなどの身体を使った遊びや技能への記述が多かった。「思考力・判断力・表現力」のカテゴリーでは、絵本や積木などの様々な遊びや土や砂、廃材などの素材に触れながら経験を通し、試行錯誤しながら自分

表2 資質を育成するために必要な表現活動（保育者）

| カテゴリー | 自由記述 |
|-------------|---|
| 知識及び技能 | 自由遊びを沢山する |
| | ゲームやテレビの世界ではない実体験を多く経験していくこと |
| | ルールのある遊びや体を動かす（器械体操）跳び箱、鉄棒 |
| | 持久走や器械体操など基本的な体力向上と身体のコントロール（マット、トランポリン、マラソン、鬼ごっこ） |
| | 手先を使った遊び |
| 思考力・判断力・表現力 | すぐに「いけない」と注意するのではなく見守る |
| | いろいろな人と接したりいろいろな体験を増やしていく |
| | 触れ合い遊びや様々なパターンのリトミック |
| | 失敗と成功の経験 |
| | 自ら選択できる環境（遊び、絵本、使いたい廃材など） |
| | 子ども達で考えたり取り組んだりする機会を作る（話し合いなど） |
| | 集団で一つのものを造りあげる |
| | 絵本の読み聞かせ、折り紙、カルタ、トランプ遊び、積木、粘土、パズルの経験 |
| | 自分で判断する力を育てる為に選択肢を与える |
| | いろいろな素材に触れ、イメージを形にできる経験をさせる（土、砂、草花、粘土） |
| 学びに向かう力・人間性 | 好きなもの、好きなことをたくさん見つけて「得意」にしておく |
| | 子ども達と話し合う場（機会）をつくり、やる気や創造力を引き出すようなきっかけや言葉かけをして学ぼうとする心を育てる |
| | 自分で考える力を養うために絵本を見たり廃材などを利用していろいろなものを創作していく |
| | 子どもが遊び込める環境構成（狭い場所や天井がひくい等） |
| | 本物（絵画、造形物など）を見せる |
| | 季節の行事に参加する |
| | 素足（温度、感触）砂、泥 |
| | 周囲から愛情を感じる |
| | 色々なにおいや感触にふれた際、保育者が「いいにおいだね」「キレイな色だね」など言葉にすることにより五感と言葉が直結し感受性がより豊かになる |
| | 音楽との関わり |
| | 自然の中で虫、実、土に触れたりすること |
| | 色々な楽器に降り、音を楽しむ（歌） |
| | 愛着形成を養う |
| | 集団遊びや自然に触れながら遊び、じっくり遊び込む |
| | 四季を感じられるよう季節感のあるものに触れる、見る、それを絵や作品にしてみる |
| | 母親の沢山の語りかけ |
| | 子どもが関わりを求めてきた時はちゃんと気持ちに寄り添う（話を聞いてあげる） |
| | 信頼感を育む時期なので、スキップを多く取る |

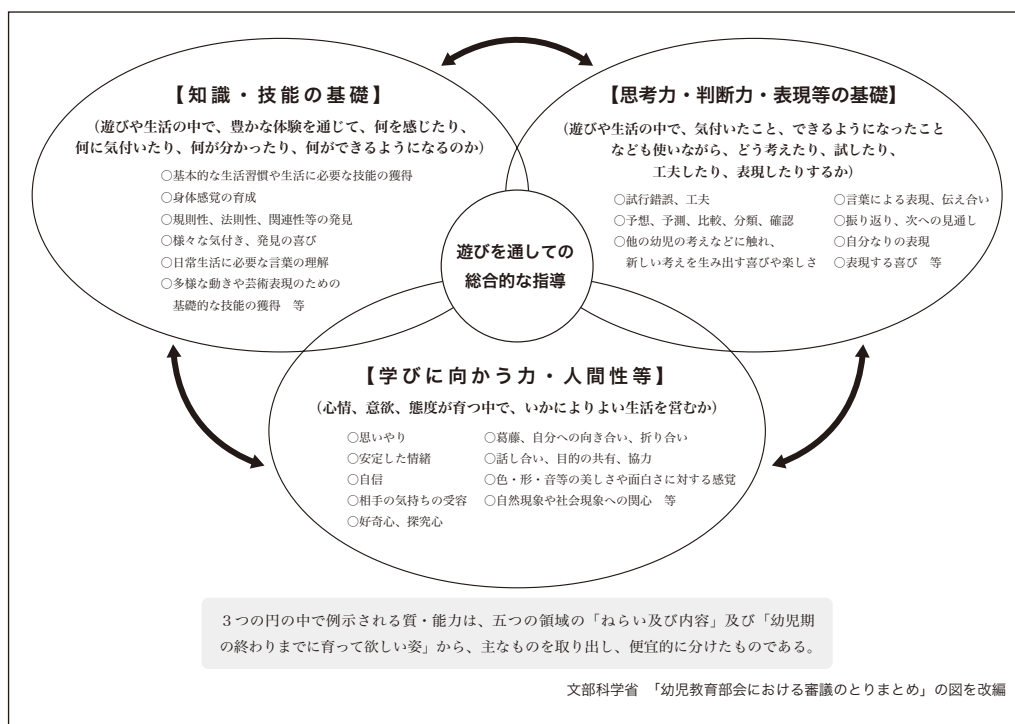


図3-7 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」⁸⁾

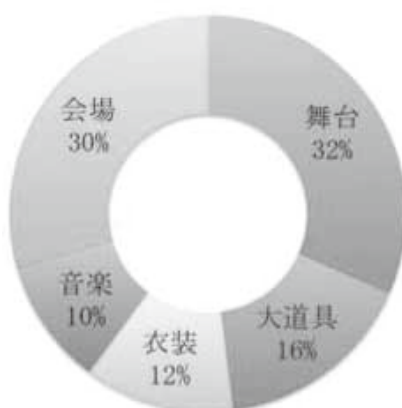


図4-1 舞台表現への意識

なりの表現に繋げる記述が多くみられた。「学びに向かう力・人間性等」のカテゴリーでは、様々な音や土、季節感などの自然に触れ合いながら遊び、周囲からの愛情(母親の語りかけ・信頼関係・気持ちに寄り添う)などの記述が多く見られた。

3. 舞台発表としての表現への意識調査

学生の舞台表現に対する意識については、舞台表現に関わる学生が舞台32%、大道具16%、衣装12%、音楽10%、会場30%の回答であった〔図4-1〕。自由記述では、分類してまとめると「協力すること」「もの作り(衣装・大道具)」「舞台構成について」

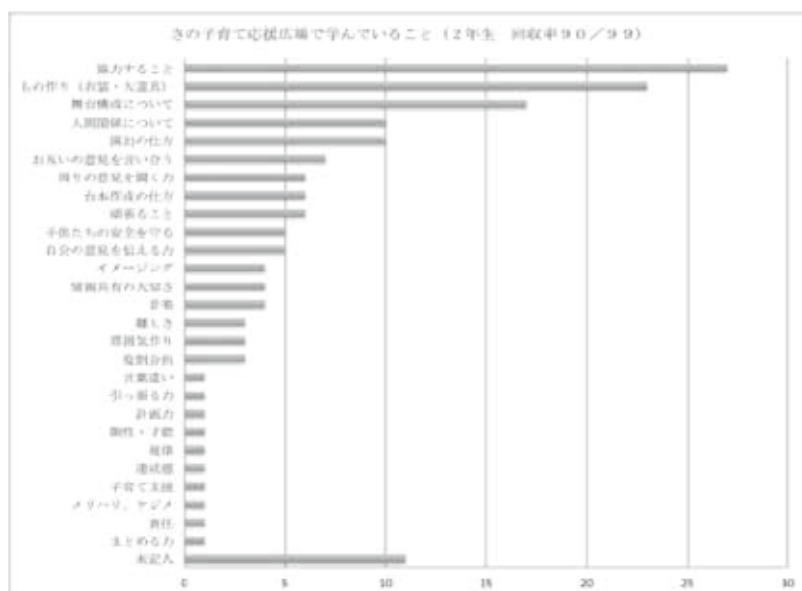


図4-2 学んでいること（自由記述）

「人間関係」「演出の仕方」が多く回答された【図4-2】。

IV. 考察

1. 表現活動実践のために必要な技術の習得

（1）保育者が求める技術

保育者に必要な技術を実際に分類した調査結果では、保育者の全体、勤続年数別、学生全体、学年別でも全ての集計で「読み聞かせ（絵本・紙芝居）」であった。絵本の読み聞かせは、脳（大脳辺縁系：喜怒哀楽を生む）への働きかけで情動を豊かにする⁹⁾ので、子どもには、科学的な効果や人の声で読んでもらったという幸福感、優しさや人との関わり方など多く、学びが豊かな感受性を育てていくと考えられる。また、絵本の構成や子どもが受ける保育者からの影響についても述べている¹⁰⁾ことから、読むだけでなく、その環境構成や配慮、その後の展開も必要であり、保育者にとっては質の高い技術、或いは保育者自身の資質が必要であると考えられる。保育者自身がその技術を必要と感じ、学生もその意識があると認識できた。

次に、「ピアノ技術」「弾き歌い」が大きな数値を示し、表現活動を展開するためには音楽的な技術が特に必要であることも示唆された。音楽的要素を必要とするピアノ技術については、弾き歌いとリトミックの記述を集計することで、保育者、学生共に多くの数値を示した。「ピアノ技術」「弾き歌い」の比較では、保育者全ての勤続年数別において、弾き歌いよりも「ピアノ技術」を必要としているのに対し、学生の学年別では「弾き歌い」が「ピアノ技術」よりも高く、1年生では大きな差が見られた。

幼稚園と保育園の比較調査において、幼稚園では「ピアノ技術」が最も必要とされている¹¹⁾。子どもがどんな表現活動に興味を持ち、どんなことが楽しいのかを分かっているのは、身近にいる保育者であり、その活動を実践するにはどんな技術が必要なのかは保育者自身が感じていることである。保育者が更に身につけたい技術として6割程度記述されたことは、様々な生活場面において、弾き歌いや応用的要素を含むリトミックなど、常にピアノを弾く保育者にとって、基本的な「ピアノ技術」を習得しなけ

れば保育の展開ができないと実感していることであろう。学生の意識としては、弾き歌いが高い数値を示し、これから学びたいことにうたい方が回答されたことでは保育者に対する意識として示唆された。これからのピアノ教育の課題としては、「ピアノ技術」の必要性、その技術を展開した弾き歌いと応用的ピアノ技術に発展できるよう、これからの養成校にとっても重要な役割である。

(2) 養成校での技術の習得

養成校では、これまで限られた2年間の技術の習得が求められ、実際に現場で活用できる表現活動に必要な技術が習得できているのかは様々な疑問があり、研究がなされてきた。本学でも、ピアノ技術の必要性を述べ¹²⁾、初心者ピアノ技術を重視して、入学生のピアノの経験を調査した上で個々の習熟度に合わせたピアノの入学前教育を継続している。それでも、ピアノ経験がない入学生が増え、2年間で幼児曲が弾けるピアノ技術の習得には至っていない現状が課題となっている¹³⁾。

造形的な技術としては、保育者からは子どもたちに造形活動をする中で、導入から造形的な表現活動、更に遊びへの発展に繋がるような保育の技術を求め、それを実践していることが推察できた。粘土、廃材、松ぼっくり等の素材や自然物、絵の具、クレヨン、はさみ等の道具に触れ、自然や身近なものから造形活動に発展できるような総合的指導ができる保育者を育てたい。

2. 保育者に必要な資質とその育成

(1) 保育者に必要な資質

保育者に必要な資質の結果から、全ての対象者で、コミュニケーションと観察力が高い数値を示した。次いで、感受性、創造性、判断力には勤続年数別と学生の学年別で差

が示された。学生には、限られた資質(コミュニケーション、観察力、判断力)のみが高い数値を示し、勤続年数別では、10年未満で「創造性」、10年から14年で「発想力」が高くなり、10年以上勤務している先生方からは、バランスの取れた資質が必要であると捉えることができる。また、その資質を育成する時期として、幼児期であるとの回答が多く得られ、その内容は保育で実践できる活動が多かった。幼児期による資質の育成が必要であることが示唆されたことは、生きていく上で必要な資質であり、その基礎を育成するのが保育者であることを踏まえて保育していることである。

日頃から子どもたちに対して、その資質や能力を育てようとする信念で保育していることも窺え、今回の改訂で、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿の10項目には、日頃の生活や遊び、表現活動から捉え直してみると、その過程における学びの質が見えてくると考える。

(2) 領域「表現」からの表現の育成

これまでの領域「表現」のねらいと内容は変わっていないが、文言が加わった取扱いで表現する過程と捉えた事例である。

事例：4歳児

玄関先にある水たまりの中にAちゃんが座っている。その側ではAちゃんのお母さんと保育者がいた。その水たまりの大きさはAちゃんがちょうど入る程度の大きさで、着ている洋服まで濡らしながら遊んでいる。その側ではその水たまりからシャベルで溝を作り小川を作っているBくんもいた。Aちゃんはふと水たまりに大の字で寝そべった。そしてBくん「ねえ、ねえBくん。この水たまり、温ったかいよ。温泉みたいだよ。」と言った。

当日、雨は降っていたが、昼食前には晴れ、降園時には太陽が照らしその水たまりを温かくしていた。母親と保育者の信頼関係もあると考えられ、母親は見守っていた。大人が避けてしまう水たまりに A ちゃんは身近な遊びの対象である自然の環境を利用して、水たまりが温かいことに気づき、B くんを感じたことを「温泉みたい」と言葉で伝えたのだろう。このような子どもの全身の感覚で感じた表現に気づき、「豊かな感性と表現」を共感できる保育者を育てたい。

(3) 舞台表現での学び

保育者養成校として、「学生が子どもの『表現』について理解できても、あるいは理解しようとしても、保育者自身の『表現者』として実践体験が少ない」¹⁴⁾と問題点を述べ、学生に必要な実践的な授業方法を研究されている。本学の学生も表現者としての実践経験は少なく、表現することに自信が無い学生も多くいる現状であり、様々な授業で実践的な展開をしている。2年生の授業終了後には、総合的な表現活動として舞台発表が実施され、大きな舞台を経験することになる。これは、単位化されていない学校行事として2年生全員の活動を促し、学生が選択して、舞台(演技、大道具、衣装、音楽)、会場を担当する。舞台を担当する学生は、9月下旬から2月の本番までの授業の空き時間(週に7コマ程度)、1月からの空き時間と夜間練習を費やして創り上げている。会場担当の3割の学生は、1年生のスタッフと一緒に事前準備を重ね、園児や保育者、保護者、一般の方のご案内と誘導をして、2年生全員が役割を果たしている。

学生からの学びでは、共同して創り上げて得た「達成感」や自分と向き合った「自己発見」、人間関係である「相互尊重の自己表現」¹⁵⁾等、表現することで多角的に自分を捉えることができ、自分の表現をより豊

かなものに導く保育の「表現者」に近づくことができたのだと考えることができる。また、主体的な学びの中から技術や資質を向上させる要素があると考え、表現力の育成の役を担っていると言える。

V. まとめ

本研究は、保育者が求める技術や技能から本学の学生に対して表現の育成について考察した。保育者からは、子どもの「表現する過程」の一つである表現活動で、子どもたちの表現を引き出すための技術、保育者に求めている資質、それを育成する時期が幼児期であると示唆されたことは、常に子どもに対する愛情や保育者自身の熱意と向上心で教育、保育をしていることが分かった。日頃から子どもの「生きる力」の基礎となる資質、この研究の目的であった「豊かな感性と表現」を育てている現状は、これからも、改訂された各領域の明確な趣旨を踏まえて、表現活動を展開していくことであろう。

養成校としても、保育者の回答で得た現状を踏まえ、保育者に必要な技術と資質の向上を目指し、子どもの表現を最大限に引き出すことができる保育者を育成しなければならない。

謝辞

本調査にあたり、協議していただいた各園の園長先生、アンケート調査にご協力いただいたき貴重な回答をしていただいた各園の先生方に、心より御礼申し上げます。

また、保育者を目指す本学の学生にも感謝いたします。

註

- 1)「さの子育て応援広場」として佐野市との地域連携事業である。今年度で11回目を迎えた恒例行事であり、学生の2年間

の集大成として開催している。舞台に関わる学生（大道具、衣装、音楽担当）で、脚本、振り付け、衣装、大道具、音楽、照明、音響等、全てが学生主体による創作劇となっている。佐野市内幼稚園、認定子ども園、保育園児（650人）と保育者の方を対象として、一般や学生保護者にもご案内させていただいている。

引用文献・参考文献

- 1) 文部科学省（平成29年告示）幼稚園教育要領
- 2) 内閣府、文部科学省、厚生労働省告示第一号（平成29年3月31日）幼保連携型こども園教育・保育要領
- 3) 厚生労働省（平成29年告示）保育所保育指針
- 4) 文部科学省（平成29年告示）小学校学習指導要領
- 5) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課（平成29年）幼児教育初等教育資料「新幼稚園教育要領を基盤とした今後の幼児教育の展望」（前半）4月号 pp.40-47
- 6) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課（平成29年）幼児教育初等教育資料「新幼稚園教育要領を基盤とした今後の幼児教育の展望」（後半）5月号 pp.104-111
- 7) 溝口綾子（2012）「保育内容の指導法「表現」における授業方法の検討」帝京短期大学紀要 第17号 pp.55-62
- 8) 文部科学省幼稚園教育部会における審議の取りまとめ（平成28年8月26日）
- 9) 泰羅雅登（2007）「読み聞かせは心の脳に届く」くもん出版
- 10) 並木真理子（2012）「幼稚園における絵本の読み聞かせの構成および保育者の動作・発話が幼児の発話に及ぼす影響」保育学研究 50巻2号 pp.165-179
- 11) 林悠子 森本美佐（2012）「保育者養成校に求められる学生の保育実践能力と資質について」奈良大学短期大学紀要 45号 pp.123-130
- 12) 関根志のぶ（2008）「教則本の有効性と指導法 - ピアノメソッドと初心者ピアノ指導から -」佐野短期大学紀要第19号 pp.183-191
- 13) 岡泉志のぶ（2013）「幼稚園実習におけるピアノ課題曲資料」佐野短期大学研究紀要第24号 pp.69-79
- 14) 河野久寿（2014）「オリジナル音楽劇による保育者の表現力育成に関する一考察」仁愛女子短期大学研究紀要第46号 pp.37-46
- 15) 上田淳子（2015）「舞台芸術の創造体験でみられるコミュニケーション・スキルの向上について」目白大学短期大学 研究紀要第51号 pp.81-96

佐野日本大学短期大学と東北財経大学（中国・大連）による共同研究
世界産業遺産の分類、地域分布及び影響因子についての分析

Analysis of the classification, regional distribution and influential factors of World Industrial Heritages

崔 衛 華^{※1} 長 江 庸 泰^{※2}
Wei-hua Cui Tsunehiro Nagae

寺 前 秀 一^{※3} 賈 青 鑫^{※4}
Syuichi Teramae Qing-xin Jia

Abstract:

This paper determines the 72 world industrial heritage in the scope of The World Heritage List. This study used the method of mathematical statistics, spatial structure analysis and space-time analysis to explore spatial structure and determinants of World Industrial Heritages. Through the spatial structure analysis of world industrial heritage, it is found that the spatial distribution is not balanced.

Through the space-time analysis of world industrial heritage, we find world industrial heritage space distribution in Europe and Asia has some large fluctuations at different times. Especially in recent years, the number of Asian World Industrial Heritage has increased dramatically, it provide an important guide and opportunity for Asian World Industrial Heritage will become World Heritage.

Based on the above verifications, the spatial distribution characteristics of world industrial heritage are influenced by industrial revolution, concept of industrial heritage protection and international speaking right.

キーワード：

世界産業遺産（World Industrial Heritages）、地域分布（Regional distribution）、影響因子（Influential factors）、世界遺産（World Heritages）、世界遺産保護（World Heritage Protection）

1. 緒言

2003 年、「国際産業遺産保存委員会」（TICCIH：ユネスコの世界遺産審査諮問組織）が公布した「ニジニー・タギル憲章」は、

産業遺産保護分野の権威的な一次資料（primary source）であり、産業遺産を「歴史的・技術的・社会的・建築学的、あるいは科学的価値のある産業文化の遺物からなる」

^{※1} 東北財経大学 産業組織・企業組織研究センター Center for Industrial and Business Organization, Dongbei University of Finance and Economics

^{※2} 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科 Sano Nihon University College

^{※3} 人流・観光研究所 Human Logistics & Tourism Laboratory

^{※4} 東北財経大学 法学部 Faculty of Law, Dongbei University of Finance and Economics